

日本GAP協会の会報誌「MONTHLY-J」が「JGAP+」にリニューアルいたしました。
JGAPがきっかけとなり、新しい人と人の出会い、新しい農産物の流通、
新しい農業ビジネスモデルの構築が各地で始まっています。
「JGAP、そしてその先へ」をテーマに、最前線をお伝えしていきます。

JGAPとは……

JGAPは、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証です。JGAPは、農場やJA等の生産者団体が活用する農場・団体管理の基準であり、認証制度です。農林水産省が導入を推奨する農業生産工程管理手法の1つです。

J G A P T O P I C S

JGAPトピックス

輸出部会の第1回会合が開催



4月20日、会員部会のひとつである輸出部会の第1回会合が開催された。同部会はJGAP認証農場が海外でも活躍することを目指し、輸出に関係する会員がJGAP認証農場をバックアップする体制づくりを行なっている。会合では、JGAP認証農場の輸出拡大に向けた方策や、テストマーケティング先として想定している香港における課題などについて話し合いがもたれた。部会長には平賀清一・日本輸出振興(株)社長(前・ANAロジスティックサービス(株)社長)が選ばれた。

新版放射能検査プログラムの提供を開始

2011年4月より日本GAP協会が提供している「放射能検査プログラム」が、最新の放射能管理の知見・技術を盛り込み、この4月より新版となった。主な変更点としては次の3点。①農産物の測定には食品衛生法の新基準値を適用、②土壌中の交換性カリウムの影響により放射性物質の吸収が促進されないかの確認、③プログラム対象作物を「野菜」「水耕栽培」「キノコ」「コム」の4種に分類。なお本放射性検査プログラムは、ノウハウを公開しており、生産団体や流通企業が農産物の放射能管理に利用している。



第7期第1回理事会開催

5月25日、日本GAP協会第7期第1回理事会が開催された。GLOBALGAP同等性認証の進捗などが報告されるとともに、第6期事業報告および決算の承認、第7期事業計画および予算の承認がなされた。またJGAP団体事務局用管理点と適合基準2012の発行も承認され、JGAPの団体認証のさらなる普及が期待される。

JGAP穀物最新版の開発が最終段階へ

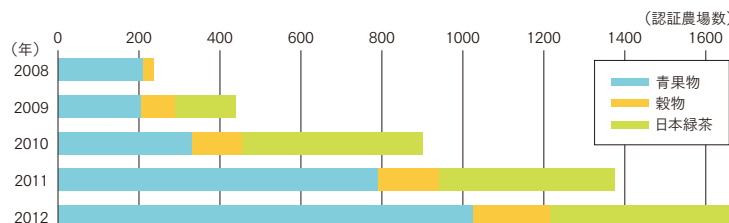
JGAP穀物(コム、麦、ソバ、大豆等)の開発が最終段階を迎え、提出締め切り日だった5月14日までは数多くのパブリックコメントが寄せられた。最新版の主な改定点としては、①精米工程専用項目および麦専用項目を設置、②放射能への対策を追加、③農場内のマネジメント・ガバナンスの構築を明確化など。

JGAP指導員ロゴマークが完成

JGAP指導員が名刺に利用するロゴマークが完成した。JGAP指導員専用ホームページからダウンロードすることができる。JGAP指導員専用ホームページには、日本GAP協会ホームページ(<http://jgap.jp/>)からアクセスできる。



JGAP認証農場数の推移



2012年4月時点でのJGAP認証農場数は、青果物・穀物・日本緑茶各部門合計で1,681を突破した。

JGAPキーパーソン・インタビュー

大崎善保

Yoshiyasu Osaki

東京デリカフーズ(株)
代表取締役社長安全な農場であればこそ
健康的な野菜が育つ(前編)

中食・外食向けの業務用野菜を提供するデリカフーズグループ。

川中に位置する同グループはデリカスコアという新しい野菜の評価基準を導入した。

19項目にわたる評価ポイントのうち、JGAPに代表される「農場の安全性」は非常に重要だという。大崎善保・東京デリカフーズ(株)代表取締役社長に話を聞いた。

おおさき・よしやす

1971年愛知県生まれ。アパレル会社経営等を経て97年創業者の志に共鳴し25歳で名古屋デリカフーズ(株)に入社。2004年デリカフーズ(株)に転籍。09年東京デリカフーズ(株)社長に就任(デリカフーズ(株)取締役兼任)。日本GAP協会理事も務める。

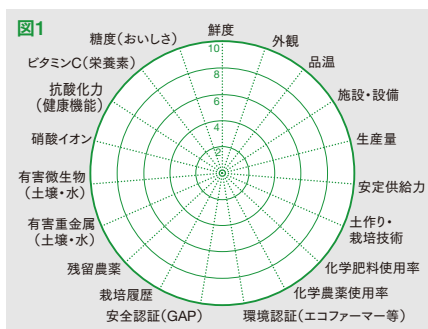


野菜の中身を評価する基準を導入

—御社はどのような事業を展開していますか？

私どもデリカフーズグループは、外食・中食といった実需者にカット野菜、ホール野菜等を卸してきた中間事業者です。いうなれば、業務用野菜の八百屋というところでしょうか。国産野菜が9割以上を占め、そのうち6~7割は契約産地から直接調達しています。

また、当グループの1社であるデザイナーフーズ(株)では、長年にわたって野菜を研究・分析し、野菜に含まれる栄養成分、特に抗酸化力や免疫力、解毒力といった健康機能評価を数値化する試みを行ってきました。これは、消費者の嗜好の変化、特に高齢化にともなう健康不安と野菜の健康効果に対する期待を受け、実需者が望む多様な野菜ニーズに占める「健康」の割合が急速に拡大してきたことが背景にあります。そして健康的な土壌からできた健康的な野菜を私どもが提供することを通じて、国産野菜の需要増と食料自給率の向上、国民医療費の軽減、ひいては地球環境の改善も図れるのではないだろうか？という考えにも至りました。そこで2009年、これらの目標を実現すべく当グループを中核に、取引先である産地・生産者、および実需者が集まった「Farm to Wellness倶楽部」という会を組織するとともに、その目標実現の手段のひとつとして「デリカスコア」という独自の野菜評価基準を導入しました。



—では、デリカスコアについて詳しく教えてください。

端的に言うと、野菜の外見だけではなく、中身を重視した評価基準です。大まかに分ければ「成分」「栽培」「流通」、そしてGAP認証と重なります

が「安全」という4つの柱からなります。そして、それらをさらに細分化して、全部で19項目、それぞれを数値評価するというものです。中でも「安全」という柱の小項目に含まれるのが「残留農薬」「安全認証(GAP)」「環境認証(エコファーマー等)」等です(図1参照)。

JGAP認証取得農場は安全面で高評価

—デリカスコアは生産者および実需者にとってどのような意味がありますか？

単なる野菜取引の基準ではなく、それ以上の意味があるのではないかと思います。たとえば、ある外食企業は、抗酸化力が高い野菜を望んでいるとします。しかし、これまでは中身を評価する基準値が整備されておらず、望んだ野菜がきちんと卸されているかどうか、よくわかりませんでした。しかし、デリカスコアを活用することで、中身がはっきりわかる野菜を調達できるようになります。一方産地・生産者においても、自ら生産した野菜を数値評価されることで、改善すべき点がどこにあるか把握できます。また取引先のニーズも明確になります。それによって付加価値の高い野菜づくりに取り組む上での指標にもなり、経営上の戦略も立てることも可能になってきます。川上から川下というサプライチェーンの中で、消費者のニーズに応える上で必要な目線を共有するための指標になるというわけです。

—さて、デリカスコアの項目において、JGAP認証が占める割合とはどのようなものですか？

19項目のうち1項目ですが、GAPが定めるところの「安全」は4つのうちのひとつですので、大きな部分を占めるといえます。JGAP認証を取得した農場であれば、「安全認証(GAP)」の項目は10点満点となります。まだJGAPは導入していないけれど、それ以外の各種GAPは導入している農場、あるいは経営規模等の問題からJGAP認証を取ってはいないという農場もあります。もちろん、それらは一部不足する情報を追加して評価していますが、こと農場・農作物の安全性への配慮という点で最も評価できるGAPはJGAPなので、その意味でJGAP認証を取得した農場の農作物は安全性が非常に高いという判断をしています。(以下次号)

事務局長
編集後記

GAPに関する日本最大のシンポジウム「GAP Japan 2012」が昨年に続き東京大学で7月18日(水)に開催されます。恒例の「GAP普及大賞の表彰式」や「流通・小売業とGAP トークセッション」など盛りだくさんです。特に今年の企画で私が最も注目しているのは、「JGAP認証農場は、放射能問題といかに戦ったか? トークセッション」です。東日本の3つのJGAP認証農場に登壇してもらい、原発事故の影響で農場に何が起きたのか、また それにどのように対応したのか、現場のリアルを語ってもらおうと思います。そして、JGAP認証農場の危機対応の強さを確認したいと思っています。

私は今シンポジウムの準備で大忙しです。今年も見逃せない企画ばかりです。みなさん、ぜひご参加ください。お待ちしております。